2011年6月13日

真岡市長　井田 隆一　様

社団法人 日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部　　支部長　上浪 寛
同 保存問題委員会　委員長　左 知子
同 栃木地域会　　代表　慶野 正司

震災被災文化財建造物の保存活用に関する要望書

拝啓　時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。
貴市におかれましては、日頃より文化の発展と継承に深く理解を示されていることに、心より敬意を表します。

さて、この度 報道等により、貴市荒町2162の市登録文化財（2003年登録）、真岡市物産会館（旧岡部呉服店店舗）が解体中であることを知り、驚きを禁じ得ません。
「（震災被害により）崩壊の危険性があるために、解体撤去を決断した。」と聞いております。しかしながら、建築設計の専門家である当協会会員の現地確認によれば「南側下屋部分倒壊や屋根部分の崩落など一見甚大な被害に見えるが、本体部の柱・梁などの軸組はほぼ健全であり、当面の崩壊の危険性もほとんどなく、適切な修理を行えば今後も保存活用が十分に可能」との報告を受けていましたので、今回の解体撤去の判断は極めて残念な事態と受け止めています。

震災から１ヶ月も経たない３月末に解体を決定したと聞き及んでおります。正式な手続きを取られていることは承知しておりますが、失ってしまってからでは取り戻すことができない、全ての市民の財産でもある歴史的・文化的な価値の高いこの文化財建造物を、専門家による入念な調査・検討なしに、救うのではなくこれを失う方向にその決定がなされたとすれば、その手続きは余りに拙速ではなかったかと危惧しております。

ご高承のように、　真岡市物産会館は真岡木綿の産地として隆盛を極めた明治初期、木綿問屋5軒が軒を連ねたという、その1軒を保存・改装し、地元物産店舗として有効活用されてきた建物でした。真岡の往時の姿を偲ぶ建物であり、隣接する県指定文化財・岡部記念館「金鈴荘」とともに真岡市民に長く愛され街の誇りとされ、また街の象徴として観光の拠点でもありました。

「金鈴荘」をはじめ、市に所在する多数の文化財建物は多少なりとも震災の被災を受けていると思われます。震災直後の応急危険度判定はその後の二次的な人的被害を防ぐためのものであり、この判定による危険度の大小は建物の実質的被害や保存活用の可否と必ずしも一致するものではありません。真岡市において、今震災による復旧不能となるような被害は非常に少ないとの情報を得ており、改めて専門家による調査・検討の上、適切な修理を施して、貴市によるこの地域の将来の主要な文化的・景観的要素として、これら歴史的建造物を永く活用されますよう、ここにお願い申し上げます。

なお、当協会としましても、貴市の文化財建物の保存活用について、出来る限りの協力をさせて頂く所存である事を申し添えます。

敬具

社団法人 日本建築家協会
The Japan Institute of Architects
関東・甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館
Tel.03-3408-8291　Fax.03-3408-8294